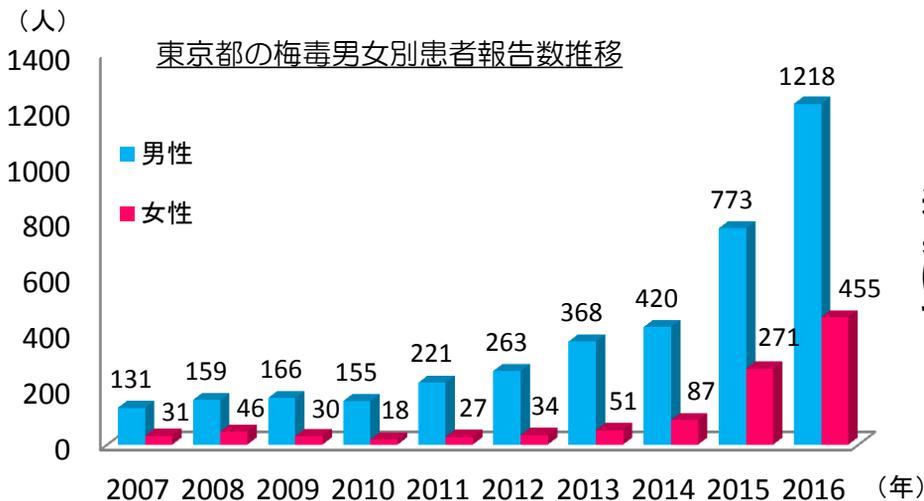


梅毒患者が急増しています！



(二期パラ疹の写真)

第1期 感染後3週～	性器、肛門、口に初期硬結、硬性下疳。または症状がない。見過ごすことが多い。無治療でも約一か月で症状消失。
第2期 感染後3ヵ月～	手のひら、足の裏など全身にバラ疹(癒合性がない、散在性、皮疹の中央部に乾燥した局面がある、落屑)、丘疹、脱毛。バラ疹は無治療でも短期間(数週～数ヵ月)で消失。
潜伏梅毒	無症状のまま何年も経過し、脳、眼、神経、臓器などで感染症状が進行。
後期梅毒	感染から数年～数十年後に心血管、神経系症状などが出現。



近年、患者報告数は男女とも急増し、特に女性の割合が増えています。

誰にでも感染のリスクがあります！

- 2010年～16年で1期は31倍、2期は7倍。咽頭口腔病変は2015年から増加。
- 異性間性的接触感染が急増しており、男性同性間性的接触(MSM)感染も増加。
- 現在、先天梅毒の発生は年間0～3件程度ですが、若年女性での梅毒流行が継続すれば、先天梅毒の発生が増加するおそれもあります。

【先天梅毒(CS)】

感染した妊婦から胎児に感染し流産、死産等の原因となります。母の感染後1年以内のリスクが高いと言われていますが、妊娠第二期までの治療で阻止可能です。

症状は、脾腫、黄疸、失明や難聴、髄膜炎、発疹などです。出生時無症状の事もありますが、未治療では重症合併症が起こる可能性があります。

患者さんに伝えてください！

オーラルセックス（口腔性交）でも感染する！

膣やアナル性交をしなくても、オーラルセックスやキスでも感染します。

症状がでても痛くない！

感染しても、症状がなかったり、皮ふの症状ができても痛くない事があります。最初の症状は一か月程で自然になくなり、気が付かなかったり治ったと思ってしまうことがあります。そのため 心当たりがあるときは、梅毒検査を受けたり医療機関を受診しましょう。

症状がなくても感染する！

自覚症状がなくても、パートナーを感染させてしまうことがあります。

ピンポン感染！

自分だけが治療してもパートナーから再感染したり、その逆もあるので、パートナーも完全に治療することが必要です。検査はパートナーも受けましょう。

何度でも感染する！

完治しても免疫はできないので、感染を繰り返すことがあります。治療した後も引き続き、コンドームを正しく使用したり、気になる症状があれば早めに医療機関を受診しましょう。また、症状がなくても早期発見・早期治療ができるので、定期的に検査を受けましょう。

妊娠中は特に注意！

お腹の赤ちゃんに感染してしまう事があります！妊娠中の治療開始が早いほど、お母さんと赤ちゃんの健康に良い結果が得られます。

梅毒を疑う時は、検査をしましょう。

診断したら発生届を提出して下さい！ 東京都感染症情報センター(発生届)
<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/assets/survey/kobetsu/y5-15N.pdf?20160215>

検査結果の見方はこちら <http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/survey/kobetsu/#HA>

* 無症候梅毒も発生届が必要です。詳しくは届出基準をご参照下さい。

国立感染症研究所

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/ha/syphilis/392-encyclopedia/465-syphilis-info.html>

米国疾病対策センター(CDC)

<https://www.cdc.gov/std/syphilis/default.htm>

監修：厚生労働省科学研究費補助金・エイズ対策政策研究事業「HIV検査受検勧奨に関する研究」研究班
東京都福祉保健局、公益社団法人東京都医師会

問い合わせ

東京都福祉保健局感染症対策課
03 (5320) 4487

公益社団法人東京都医師会疾病対策課
03 (3294) 8837